

北有賀バス停から道路を渡り、東側に小路を入った所にある小さな社が赤石社（赤石明神）である。鳥居と玉垣に囲われた長さ1.5m強の赤みがかった石が祀られている。諏訪明神が諏訪の国に入った時に湖を渡りここで上陸し、石の上で垢を落とし身を浄めた石でそのあと小敷原に向かったと言われている。

「垢」を「赤」とするのはダジャレのよう。元々は「垢石」だったのかも知れない。武田信玄を諏訪湖に葬った時の血で赤くなったなんて話もある。

この地籍は石舟渡であり、諏訪大社上社本宮の波除鳥居とほぼ同じ標高であることから、諏訪湖のほとりに水に

浸っていた石で、上陸するのに勝手の良い場所だったと思われる。

ここに上陸した諏訪明神とはいったい誰なのか？明神と言えは神仏習合後のように感じる。しかし、諏訪湖を渡って赤石から初めて諏訪に入るといったルートからすると、建御名方（タケミナカタ）ではないだろうか。

赤石で身を浄めた後に諏訪明神が向かった「小敷原」とは、通称「三本松」といわれ、千鹿頭神社から中央道を越え、諏訪湖サービスエリア側に向かう途中にある三本の松が「小敷原社」である。

明神が赤石から上陸したことから出来た古い神社と伝わるが、古来より祠



赤みがかった石が祀られている赤石社



はないようだ。さらに進むと「神送り山の一本松」があり、ここが上社の神域の北端とされている。― 随時掲載詳しい場所などの問い合わせは諏訪塾事務局（電話070・8323・2107）へ。

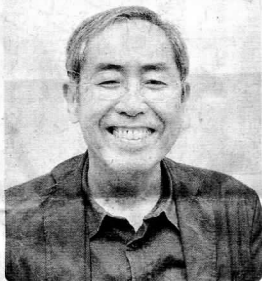
ぶらり諏訪塾の冊子ができました。

・ 諏訪市観光案内所  
（JR上諏訪駅内）

・ れすとらん割烹いずみ屋  
（諏訪市諏訪）

・ すわ大昔情報センター  
（諏訪市博物館内）  
で販売中です。

今回の筆者



五味光一さん

一級建築士。まち歩きイベントの講師も務める